

令和5年度 三鷹市立第五中学校 前期学校評価アンケート結果（令和5年7月実施）

○設問はCSIに提出した評価計画に準拠して作成しています。
○設問4,6,7,8,9,10,11,13は類型質問として、取り扱っていません。

【評価】 1 あてはまる 2 ややあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない 5 わからない(判断できない)

コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育の推進

回答数	生徒	322	保護者	69	地域(CS)	10	教員	9
-----	----	-----	-----	----	--------	----	----	---

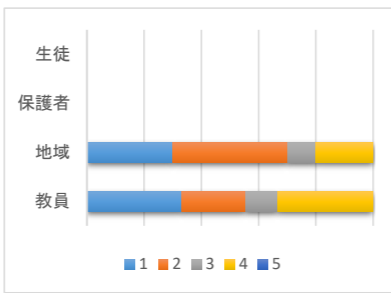
設問1 生:該当質問なし

保:該当質問なし

地:学校はCS委員の意義や役割、地域協働活動について理解を深めるための教員研修やCSと教員の熟議を実施する。

自:CS委員の意義や役割、地域協働活動について理解を深めるための教員研修やCSと教員の熟議を実施する。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	30.0%	40.0%	10.0%	20.0%	0.0%
教員	33.3%	22.2%	11.1%	33.3%	



1 CSの意義や役割について

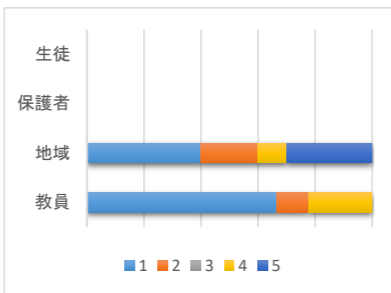
設問2 生:該当質問なし

保:該当質問なし

地:学校は、第2部としての放課後の活動を充実させるため、学校支援ボランティア等の拡充をしながら組織的・計画的に進める。

自:第2部としての放課後の活動を充実させるため、学校支援ボランティア等の拡充をしながら組織的・計画的に進める。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	40.0%	20.0%	0.0%	10.0%	30.0%
教員	66.7%	11.1%	0.0%	22.2%	



2 放課後の活動の充実・学ボラの充実

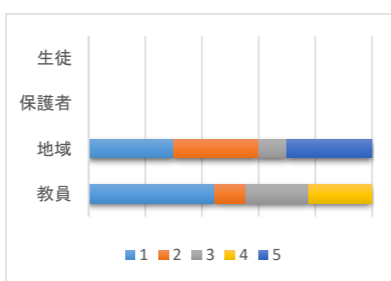
設問3 生:該当質問なし

保:該当質問なし

地:学校は、第3部の実施について、地域学校協働活動の活動も回りながら、地域のニーズに応じた活動や学校地域の強みに応じた活動を試行的に実施する。

自:第3部の実施について、地域学校協働活動の活動も回りながら、地域のニーズに応じた活動や学校地域の強みに応じた活動を試行的に実施する。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	30.0%	30.0%	10.0%	0.0%	30.0%
教員	44.4%	11.1%	22.2%	22.2%	



3 学校3部制の推進

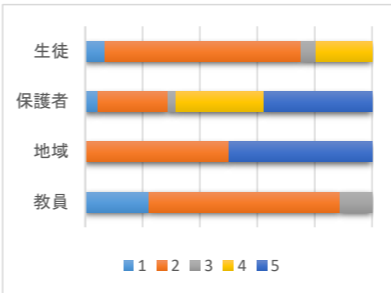
設問4 生:小学校の先生の乗り入れ授業は、学習内容がわかりやすい。

保:お子様にとって、小学校の先生の乗り入れ授業は、学習内容がわかりやすい。

地:学校は、昨年度の学園研究で得た成果をもとに授業実践し、教科・領域ごとに分科会で指導法の効果を検証し、PDCAを進める。

自:昨年度の学園研究で得た成果をもとに授業実践し、教科・領域ごとに分科会で指導法の効果を検証し、PDCAを進める。

	1	2	3	4	5
生徒	6.8%	68.6%	5.0%	19.6%	
保護者	4.3%	24.6%	2.9%	30.4%	37.7%
地域	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
教員	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	



4 学園研究の成果に基づき授業実践と指導法の検証

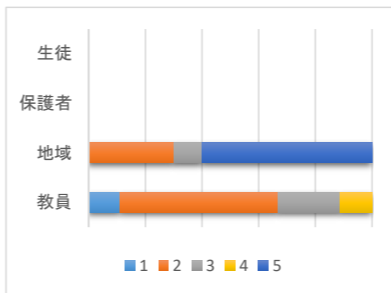
設問5 生:該当質問なし

保:該当質問なし

地:学校は、交流活動の意義や目的に照らし合わせて活動を見直すために、生徒のアンケートや行動観察により評価して改善策につなげる。

自:交流活動の意義や目的に照らし合わせて活動を見直す。生徒のアンケートや行動観察により評価して改善策につなげる。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	60.0%
教員	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%	



5 交流活動の意義

知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

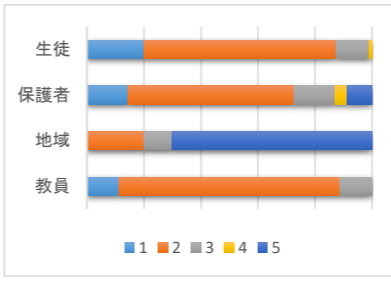
設問6 生:授業で学習する目標はわかりやすく、テストの内容は学習目標と合っている。

保:授業で学習する目標はわかりやすく、テストの内容は学習目標と合っている。

地:学校は、新学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」の研究実践・授業改善を行うため、ルーブリックの活用とその活用事例の共有、都学力調査個人票の活用について研究チームから提案し、全員で指導に活かす。

自:新学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」の研究実践・授業改善を行うため、ルーブリックの活用とその活用事例の共有、都学力調査個人票の活用について研究チームから提案し、全員で指導に活かす。

	1	2	3	4	5
生徒	20.2%	67.1%	11.8%	0.9%	
保護者	14.5%	58.0%	14.5%	4.3%	8.7%
地域	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	70.0%
教員	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%	



6 学習目標と評価基準の明示と活用

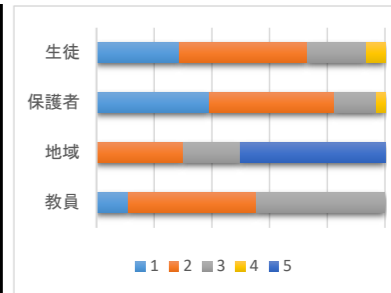
設問7 生:自分から家庭学習を行い、習慣化している。

保:お子様は、自分から家庭学習を行い、習慣化している。

地:学校は、改訂鷹南スタンダードの浸透、家庭学習の習慣化、タブレット端末を活用した自学自習の習慣、反復学習の徹底などを推進している。

自:改訂鷹南スタンダードの浸透、家庭学習の習慣化、タブレット端末を活用した自学自習の習慣、反復学習の徹底などを推進している。

	1	2	3	4	5
生徒	28.9%	44.1%	20.5%	6.5%	
保護者	39.1%	43.5%	14.5%	2.9%	0.0%
地域	0.0%	30.0%	20.0%	0.0%	50.0%
教員	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%	



7 鷹南スタンダードの徹底・学校と家庭の連携

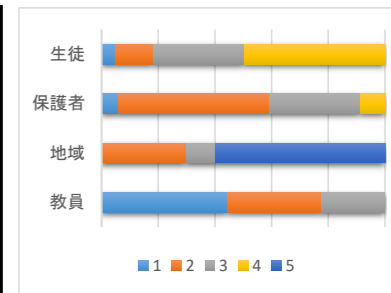
設問8 生:鷹南スタンダードの内容を知っている。

保:あなたは、鷹南スタンダードの内容を知っている。

地:学校は、生徒会と児童会が中心となって、「鷹南スタンダード」の見直しの熟議を行う。

自:生徒会と児童会が中心となって、「鷹南スタンダード」の見直しの熟議を行う。

	1	2	3	4	5
生徒	5.0%	13.4%	32.0%	49.7%	
保護者	5.8%	53.6%	31.9%	8.7%	0.0%
地域	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	60.0%
教員	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%	



8 鷹南スタンダードの見直し・熟議

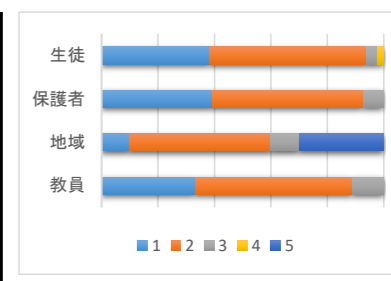
設問9 生:道徳の授業や総合的な学習の時間で、スマホやタブレット端末を通したモラルの大切さについて学んだ。

保:お子様は、道徳の授業や総合的な学習の時間で、スマホやタブレット端末を通したモラルの大切さについて学び、理解している。

地:学校は、スマホやタブレット端末を通したモラルの醸成を図るため、生徒による熟議や道徳やセーフティ教室を通して教育を推進する。

自:スマホやタブレット端末を通したモラルの醸成を図るため、生徒による熟議や道徳やセーフティ教室を通して教育を推進する。

	1	2	3	4	5
生徒	38.2%	55.6%	4.0%	2.2%	
保護者	39.1%	53.6%	7.2%	0.0%	0.0%
地域	10.0%	50.0%	10.0%	0.0%	30.0%
教員	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	



9 デジタル社会に求められる人権感覚の醸成

設問10 生:「早寝」「早起き」「朝ごはん」を心がけ、「朝ごはん」を食べている。

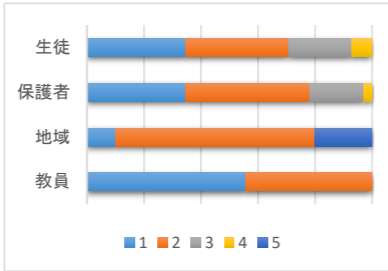
10 生活リズムの大切さ

保:ご家庭で「早寝」「早起き」「朝ごはん」を心がけ、お子様は「朝ごはん」を食べている。

地:学校は、家庭と連携し、生活リズムの大切さについて理解し、実践できる生徒を育てることや職員の推進を図るため保健だより、給食だより等による家庭との連携強化、献立コンクールの実施をしている。

自:家庭と連携し、生活リズムの大切さについて理解し、実践できる生徒を育てることや職員の推進を図るため保健だより、給食だより等による家庭との連携強化、献立コンクールの実施をしている。

	1	2	3	4	5
生徒	34.5%	36.3%	22.0%	7.1%	
保護者	34.8%	43.5%	18.8%	2.9%	0.0%
地域	10.0%	70.0%	0.0%	0.0%	20.0%
教員	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	



特色ある教育活動

設問12 生:生徒会活動、各行事委員会、学年、学級活動など様々な場面で、決まりの成り立ちや意義について考えたり、権利や義務と責任について考えている。

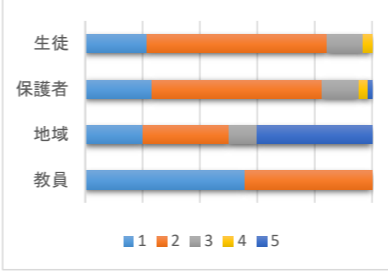
12 きまりの成り立ちや意義について考える

保:お子様は、生徒会活動、各行事委員会、学年、学級活動など様々な場面で、決まりの成り立ちや意義について考えたり、権利や義務と責任について考えている。

地:学校は、生徒会活動、各行事委員会、学年、学級活動など様々な場面で、生徒の意見や要望を吸い上げて、決まりの成り立ちや意義について考えたり、権利や義務と責任について考えさせている。

自:生徒会活動、各行事委員会、学年、学級活動など様々な場面で、生徒の意見や要望を吸い上げて、決まりの成り立ちや意義について考えたり、権利や義務と責任について考えさせている。

	1	2	3	4	5
生徒	21.7%	62.7%	12.4%	3.1%	
保護者	23.2%	59.4%	13.0%	2.9%	1.4%
地域	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	40.0%
教員	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	



学校教育の維持・向上を目指した学校の働き方改革

設問14 生:該当質問なし

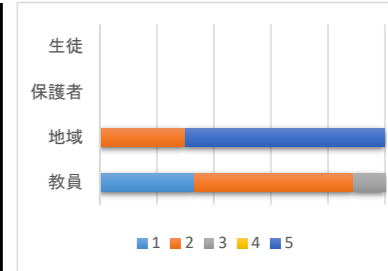
14 働き方改革の推進

保:該当質問なし

地:学校は、教職員の超過勤務状況を「見える化」することにより、意識をもたせる。また、教員のアイデアを生かしたICT教材の活用を推進する。

自:教職員の超過勤務状況を「見える化」することにより、意識をもたせる。また、教員のアイデアを生かしたICT教材の活用を推進する。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%	70.0%
教員	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	



設問11 生:体育大会への取り組みや、昼休みのボール貸し出し等で、楽しんで体を動かしている。

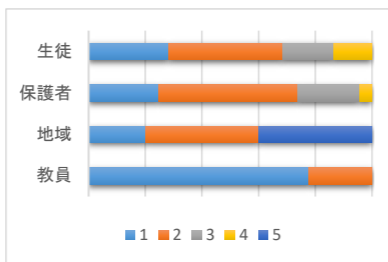
11 主体的な体育活動の推進

保:お子様は、体育大会への取り組みや、昼休みのボール貸し出し等で、楽しんで体を動かしている。

地:学校は、体育大会や体育委員を中心とした昼休みのボール貸し出し等による楽しんで体を動かす取り組みの充実をしている。

自:体育大会や体育委員を中心とした昼休みのボール貸し出し等による楽しんで体を動かす取り組みの充実をしている。

	1	2	3	4	5
生徒	28.3%	40.1%	18.0%	13.7%	
保護者	24.6%	49.3%	21.7%	4.3%	0.0%
地域	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%
教員	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	



設問13 生:自分の良いところが伸びている。

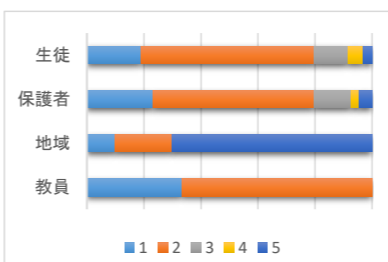
13 生徒の長所を伸ばす取り組み

保:お子様は、自分の良いところが伸びている。

地:学校は、「信じる」「認める」「ほめる」をR5年度の学校経営方針に掲げて教職員の意識改革を進めるとともに、校長の価値観を共有する。また、コーチングに関する教員研修を実施する。

自:学校は、「信じる」「認める」「ほめる」をR5年度の学校経営方針に掲げて教職員の意識改革を進めるとともに、校長の価値観を共有する。また、コーチングに関する教員研修を実施する。

	1	2	3	4	5
生徒	18.9%	60.9%	11.8%	5.3%	3.1%
保護者	23.2%	56.5%	13.0%	2.9%	4.3%
地域	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	70.0%
教員	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	



設問15 生:該当質問なし

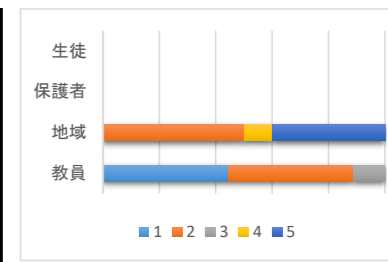
15 主体的な部活動の推進と地域人材の活用

保:該当質問なし

地:学校は、部活動が生徒の主体的・自主的な活動であることを部活動保護者会で説明と理解を得ている。

自:部活動が生徒の主体的・自主的な活動であることを部活動保護者会で説明と理解を得ている。

	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
地域	0.0%	50.0%	0.0%	10.0%	40.0%
教員	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	



評価数値の変容 <第1回(%) → 第2回(%) 差(±)>

		肯定的評価		否定的評価	
		第1回	第2回	第1回	第2回
1 CSの意義や役割について	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	70.0%	→	30.0%	→
	教員	55.5%	→	44.4%	→
2 放課後の活動の充実・学ボラの充実	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	60.0%	→	10.0%	→
	教員	77.8%	→	22.2%	→
3 学校3部制の推進	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	60.0%	→	10.0%	→
	教員	55.5%	→	44.4%	→
4 学園研究の成果に基づく授業実践と指導法の検証	生徒	75.4%	→	24.6%	→
	保護者	28.9%	→	33.3%	→
	地域	50.0%	→	0.0%	→
	教員	88.9%	→	11.1%	→
5 交流活動の意義	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	30.0%	→	10.0%	→
	教員	66.7%	→	33.3%	→

		肯定的評価		否定的評価	
		第1回	第2回	第1回	第2回
6 学習目標と評価基準の明示と活用	生徒	87.3%	→	12.7%	→
	保護者	72.5%	→	18.8%	→
	地域	20.0%	→	10.0%	→
	教員	88.9%	→	11.1%	→
7 鷹南スタンダードの徹底・学校と家庭の連携した学習習慣の定着	生徒	73.0%	→	27.0%	→
	保護者	82.6%	→	17.4%	→
	地域	30.0%	→	20.0%	→
	教員	55.5%	→	44.4%	→
8 鷹南スタンダードの見直し・熟議	生徒	18.4%	→	81.7%	→
	保護者	59.4%	→	40.6%	→
	地域	30.0%	→	10.0%	→
	教員	77.7%	→	22.2%	→
9 デジタル社会に求められる人権感覚の醸成	生徒	93.8%	→	6.2%	→
	保護者	92.7%	→	7.2%	→
	地域	60.0%	→	10.0%	→
	教員	88.9%	→	11.1%	→
10 生活リズムの大切さ	生徒	70.8%	→	29.1%	→
	保護者	78.3%	→	21.7%	→
	地域	80.0%	→	0.0%	→
	教員	100.0%	→	0.0%	→

		肯定的評価		否定的評価	
		第1回	第2回	第1回	第2回
11 主体的な体育活動の推進	生徒	70.8%	→	31.7%	→
	保護者	78.3%	→	26.0%	→
	地域	80.0%	→	0.0%	→
	教員	100.0%	→	0.0%	→
12 決まりの成り立ちや意義について考える	生徒	84.4%	→	15.5%	→
	保護者	82.6%	→	15.9%	→
	地域	50.0%	→	10.0%	→
	教員	100.0%	→	0.0%	→
13 生徒の長所を伸ばす取り組み	生徒	79.8%	→	17.1%	→
	保護者	79.7%	→	15.9%	→
	地域	30.0%	→	0.0%	→
	教員	100.0%	→	0.0%	→
14 働き方改革の推進	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	30.0%	→	0.0%	→
	教員	88.9%	→	11.1%	→
15 生徒の主体的な部活動の推進と地域人材の活用	生徒	→		→	
	保護者	→		→	
	地域	50.0%	→	10.0%	→
	教員	88.8%	→	11.1%	→